

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 愛燦会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム長寿の里・十四山)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		Hug T1 (ハグ)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年9月1日	1	令和元年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>特別養護老人ホームのご入居者の生活動作に関わる移乗の際に生じるご入居者と介護職員双方の負担軽減を図る デモ機使用（同時に研修実施）⇒導入決定後⇒業者との契約⇒令和元年9月機器納入⇒使用状況検証⇒導入効果報告</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>ご入居者の尊厳、プライバシーを十分に考慮し、使用前にご入居者及びご家族へ使用について説明・了承を得た上で使用する</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】（3年間目処）</p> <p>職員の身体負担軽減（移乗の際腰部への負担が大きく、腰痛へ繋がるリスクが高いことから、ロボットを導入することで職員の身体的負担を軽減し、腰痛予防を図る） 既に導入済のフロアより、腰痛予防が図れ、ご入居者から安心して移乗ができるようになったとの実績を基に、事業所全体でのロボット活用に繋げる ご入居者の移乗時における身体面、精神面の負担軽減 ご入居者の状況を勘案しつつ、二人介助での移乗を一人介助できるようにする</p>			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <p>二人介助で行っている一部ご入居者のトイレ誘導及び移乗が職員一人で行う事ができ、小柄な職員が介助する際の負担軽減や、トイレ介助等における時間の短縮ができ、ユニット内での見守り強化となる 職員の腰部への負担が大きく軽減され、腰痛予防が図れることで、年齢を重ねても介護業務に従事することが可能となり、職員の安定雇用に繋がる ご入居者は安心安全に移乗ができ、身体的・精神的ともに負担軽減となる</p>			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人ふたば福祉会)

事業所名 (老人デイサービスセンターふたばデイサービスセンター)

サービス種別 (指定通所介護事業、介護予防通所サービス)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介助		マッスルスーツ Edge	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 9 月 1 日	1 台	令和元年 9 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>当機器の導入にて、職員の腰の負担を軽減し腰痛予防を図り、空気圧式の人工筋肉の補助により作業効率の向上を図る。</p> <p>導入スケジュール 導入決定→業者との契約→令和元年 9 月機器納入→使用研修実施→使用状況検証→導入効果報告 (以降年度毎に使用状況報告)</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>機器の使用目的、安全性、効果等について利用者及び家族に説明し了承を得る。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の腰痛予防。 ・職員の移乗介助における身体的・精神的負担の軽減。 ・ケアの質向上。 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで移乗困難な利用者の移乗介助は特定の職員が行っていたが、マッスルスーツの導入により多くの職員が移乗介助できる。 ・職員・利用者双方が安心できるケアができる。 ・介護ロボットの活用により職員の負担軽減や他施設との差別化を図ることができ、離職率の低減及び採用への効果が期待される。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人ふたば福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームウィローふたば)
 サービス種別 (指定介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介助		マッスルスーツ Edge	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年9月1日	2台	令和元年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>当機器の導入にて、職員の腰の負担を軽減し腰痛予防を図り、空気圧式の人工筋肉の補助により作業効率の向上を図る。</p> <p>導入スケジュール 導入決定→業者との契約→令和元年9月機器納入→使用研修実施→使用状況検証→導入効果報告 (以降年度毎に使用状況報告)</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>機器の使用目的、安全性、効果等について利用者及び家族に説明し了承を得る。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の腰痛予防。 ・職員の移乗介助における身体的・精神的負担の軽減。 ・ケアの質向上。 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗介助時の身体的負担や事故リスクの軽減。 ・夜間、職員が少ない中でのトイレ介助やオムツ交換などの介助時の身体的負担軽減。 ・職員・利用者双方が安心できる介護の実践。 ・介護ロボットの活用により職員の負担軽減や他施設との差別化を図ることができ、離職率の低減及び採用への効果が期待される。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 日進福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム 日進ホーム)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗支援ロボット		移乗サポートロボット Hug L1-01 (S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 10 月 1 日	1 台	令和元年 10 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>トイレ及びポータブルトイレやベッドと車椅子間等での移乗介護に介護ロボットを活用することで、介護職員の腰痛予防と入居者と職員双方の身体的負担の軽減を図る。</p> <p>(導入スケジュール) 補助金交付申請→補助金交付決定→購入(発注)→納品(受注後順次)→使用前研修→使用(導入)</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器を使用する目的、機器使用方法の説明を行った上で、本人及び家族の同意を得る。 ・動作毎に声がけをし、コミュニケーションをとり、安心感をもって介護を受けて頂くよう配慮する。 ・プライバシーに十分配慮して適切に使用する。 			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員や入居者双方にとって介護ロボットを安全で使いやすい機器として浸透させる。 ・機器を使いこなし、複数職員での移乗介助を減らすことで、移乗介助以外のケアの充実を図る。 ・介護職員の移乗介助時の腰痛の軽減及び腰痛による離職の防止。 ・介護負担の軽減により安心して長く働ける職場環境を作る。 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、二人介助が必要な方に対して、機器を活用することで、一人での介助が可能となり、個々の排泄のタイミングに合わせて、トイレへお連れすることができるようになる。 ・移乗介助による職員の負担軽減や腰痛防止になる。移乗介助時の安全性が向上する。 ・入居者の移乗介助時の不安感や恐怖心等の精神的負担の軽減につながる。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 / (株式会社 安里)
 事業所名 (東海橋苑グループホーム東起3号館)
 サービス種別 / ((予防)認知症対応型共同生活介護)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		Hug L1-01(S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和1年11月1日	1	令和1年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】 介護職員の腰痛予防と入居者様の安全な立位保持のために導入。11月に購入し、導入と同時に導入事業所から使用方法の説明をしてもらい、すぐに使用していく。</p>			
<p>【倫理面への配慮】 介護職員の腰痛防止。介護職員及び入居者が安心して介助及び移乗ができる。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) 介護職の腰痛の軽減及び腰痛による退職者が出ない。</p>			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】 介護職員が腰を痛めないようかつ安全に移乗ができる。入居者も安心して立ち上がり移乗ができる。</p>			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人愛知県厚生事業団)
 事業所名 (愛厚ホーム瀬戸苑)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介護		H u g L 1 - 0 1 (S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年11月1日	1	令和元年11月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

【事業概要及び導入スケジュール】

平成29年度に国が三菱総合研究所に委託して実施された「介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業」に参加し、H u g T 1で実証実験を行った。その後も日常の介護において使用を継続しており、今回施設の改築に伴い使用しやすくなることと、小型化と操作方法の改良がなされたことにより、対象となる利用者が増えることも考えられることから、職員の介護負担も考慮し、導入することとした。

機器導入後は、使用に適した利用者を選定したうえで、職員に使用方法を習得させ、移譲介護の場面での仕様により、介護面及び職員の業務負担面での改善点を把握していく。

【倫理面への配慮】

- ① メーカーの指導により適正な方法で使用する。
- ② 移譲介護については法人の業務マニュアルに基づいて行う。
- ③ 万一事故が発生した場合は、社会福祉法人愛知県厚生事業団利用者サービスリスク管理規程に基づき、適切に対応する。

【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)

- 1年目:新たな利用者で導入をする。
 2年目:複数のフロア・ユニットで導入する。
 3年目:全介護職員が使用可能となる。

【介護ロボット導入により期待される効果等】

- ① 利用者が不安なく移譲介助を受けられるようになる。
- ② 職員の移乗介護における業務負担が軽減される。
- ③ これまでH u gを使用していなかった職員にも使用の機会が広がり、介護ロボットへの理解が深まる。

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 / (社会福祉法人 愛生館)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわり)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		HugL1-01(S) (ハグ)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 9 月 1 日	1	令和元年 9 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】 入居者のトイレ介助中の移乗、ベッドから車いすへの移乗から発生する介護従業員と入居者双方の負担軽減を図る。 導入決定⇒業者決定⇒発注⇒機器導入 (9月予定) ⇒使用者選定⇒従業員教育 ⇒使用研修会の実施⇒使用状況、安全確認等検証⇒導入効果報告</p>			
<p>【倫理面への配慮】 入居者の尊厳、プライバシーを充分考慮する。 入居者及びご家族、関係者の説明と同意を得て対応する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) 従業員の負担軽減について、アンケートを実施。 導入前後については、客観的に評価できるよう数値で効果測定するような確認方法をとる。 入居者の身体機能の状態、安全面を考慮し、介助スタッフを2名～1名へ減員する。 入居者の安全面、安心感等の精神的負担の軽減を図る。 ノーリフトの介護手法が定着する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】 ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗、トイレから車いす、車いすからベッドの移乗を2名で行っていたところを1名で行うことで効率化がはかれる。 時間の有効活用を可能とする。 ノーリフトを推進し、介護手法を変更することで、腰痛予防を推進できる。 介護従業員により、異なる移乗動作や、不安定な状態を均一化することで、入居者の安心感を促進できる。</p>			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 愛生館)

事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわり・安城)

サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		HugL1-01(S) (ハグ)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 9月 1日	1	令和元年 9月 1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】			
<p>入居者のトイレ介助中の移乗、ベッドから車いすへの移乗から発生する介護従業員と入居者双方の負担軽減を図る。</p> <p>導入決定⇒業者決定⇒発注⇒機器導入 (9月予定) ⇒使用者選定⇒従業員教育⇒使用研修会の実施⇒使用状況、安全確認等検証⇒導入効果報告</p>			
【倫理面への配慮】			
<p>入居者の尊厳、プライバシーを充分考慮する。</p> <p>入居者及びご家族、関係者の説明と同意を得て対応する。</p>			
【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)			
<p>従業員の負担軽減について、定期的にアンケートを実施する。</p> <p>導入前後については、客観的に評価できるような数値で効果測定するような確認方法をとる。</p> <p>入居者の身体機能の状態と安全面を考慮し、介助スタッフを2名から1名へ減員する。</p> <p>入居者の安全面や安心感等の精神的負担の軽減を図る。</p> <p>ノーリフトの介護手法を定着させる。</p>			
【介護ロボット導入により期待される効果等】			
<p>ベッドから車いす、車いすからベッド等への移乗の際、2名で行っていたところを1名で行うことで効率化がはかれる。</p> <p>応援スタッフを呼ぶ時間が減り、時間の有効活用を可能とする。</p> <p>ノーリフトを推進し、介護手法を変更することで、腰痛予防を推進できる。</p> <p>介護従業員により異なる移乗動作や、不安定な状態を均一化することで、入居者の安心感を促進できる。</p>			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名（社会福祉法人なごや福祉施設協会）/
 事業所名（特別養護老人ホームなごやかハウス丸池）/
 サービス種別（介護老人福祉施設）/

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介助機器（非装着型）		離床アシストロボット リショーネ Plus	
導入時期 （予定）	導入台(セット)数	購入日 （予定）	リースの契約期間 （予定）
令和元年 9 月 1 日	1 台	令和元年 9 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>特別養護老人ホームご利用者の離床介助を提供する中で、移乗時に生じることが利用者・職員双方に生じる負担の軽減を図り、ご利用者がより安全で快適に離床できることや職員の腰痛を誘発する要因を低減させる。</p> <p>令和元年 8 月 業者との契約 9 月 機器導入 機器使用方法説明会実施 効果測定（10～12 月） 令和 2 年 1 月 評価・改善 2 月 導入効果報告</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>機器使用前に対象となるご利用者・ご家族への説明を行い、了承を得た上で実施する。また職員へは機器導入の目的の共有や使用方法などの説明会を実施して、ご利用者の安全で快適な生活を支援する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】（3 年間目処）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者が身体的負担や精神的不安を感じることなく、またご家族にも安心してもらえる介護方法の提案ができるようになる。 ・職員に生じている身体的負担の軽減を図る。また移乗介助によって発生する介護事故に対する不安を軽減する。 ・ノーリフトの考え方に基づいて移乗介助方法の転換期にある中、職員が持つ移乗介助のイメージを刷新することができる。 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の移乗介助時に生じる身体的負担や精神的不安の軽減。 ・ご利用者の移乗介助に関連する事故（内出血・皮膚剥離など）の減少。 ・職員二人での移乗介助が職員一人のできるようになることでのマンパワー不足の解消。 ・職員が「持ちあげる・抱える」等して移乗介助することで生じる腰部への負担軽減。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 生寿会)
 事業所名 (日進老人保健施設)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		H u g L 1 - 0 1 (S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 9 月 1 日	1 台	令和元年 9 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設利用者様のトイレ介助やベッドへの移乗時、ベッドから車イスへの移乗時の利用者様、介護職員双方への負担軽減を図る。 ・導入決定後→業者との契約→元年 9 月機器購入→使用研修実施→使用状況検証→導入効果報告 			
【倫理面への配慮】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の尊厳、プライバシーを十分に考慮する。 ・事前に利用者様及びご家族への使用についての説明、了承を得た上で対応する。 			
【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) <ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体的な負担軽減及び精神的な負担軽減。 ・腰痛による離職及び休職を予防する。 ・移乗二人介助を一人介助とすることが可能になることで、職員のマンパワー不足の解消を図る。 			
【介護ロボット導入により期待される効果等】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者様や職員も安心して移乗することができて、2人介助時の身体への影響を少なくし、1人介助でもゆっくりと安全に移乗ができるようになる。 ・排泄介助回数が多い利用者様にも、気軽に職員に声をかけてもらうことができる。 ・腰痛がある職員への介護負担軽減。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人 生寿会)
 事業所名 (介護老人保健施設ごきその杜)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		H u g L 1 - 01 (S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年9月1日	1	令和元年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>ハグを利用することによって、老健利用者のトイレ介助における移乗の負担を利用者と職員の双方から軽減することを目的とする。</p> <p>業者と購入契約 → 納品 → 職員に向けた取扱勉強会の実施 → 使用状況確認（施設利用者、職員） → 導入効果の報告</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗ロボット利用に対する施設利用者又は家族の気持ちを確認し、同意を得た上で利用する 			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】（3年間目処）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者と職員の移乗時の身体的負担の軽減。（利用者と職員に意見を聞く） ・施設利用者の精神面へのサポート ・二人介助の状況を一人で対応できるようにする 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ移乗時における施設利用者と職員の身体的負担の軽減 ・職員が複数で対応していた状況を一人でできるようにし、業務の効率化を図る。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人光慈会)

事業所名 (介護老人保健施設かりや)

サービス種別 (介護老人保健施設)

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		移乗サポートロボット ハグ Hug L1-01(S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 11 月 1 日	2	令和元年 8 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】 介護老人保健施設ご利用者のトイレ介助における移乗に生じるご利用者、介護職員双方の負担軽減を図る。</p> <p>【スケジュール】 導入決定後→業者との契約→令和元年 11 月機器納入 (予定) →使用者研修実施→使用状況検証 →導入効果報告</p> <p>【倫理面への配慮】 ご利用者の尊厳、プライバシーを十分に配慮する。 ご利用者及びご家族へ使用について説明、了承を得たうえで対応する。</p> <p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体負担軽減。アンケートについて、導入前後の数値確認により効果確認を行う。 ・ご利用者の状況を勘案しつつ、2人介助での移乗を1人介助ができるようにする。 ・ご利用者の移乗時における身体面、精神面の負担軽減。 <p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、職員2人介助で行っている一部ご利用者のトイレ誘導が、1人で行うことでトイレ介助における時間削減ができる。 ・ご利用者は安全にトイレへの移乗ができ、身体、精神ともに負担軽減につながる。 ・職員の身体負担軽減につながる。 			

介護ロボット導入計画書

法人名 (医療法人光慈会)
 事業所名 (知立老人保健施設)
 サービス種別 (介護老人保健施設)

(注) 介護ロボット毎に作成すること。8

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		移乗サポートロボット ハグ Hug L1-01(S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 11月1日	2	令和元年8月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】 介護老人保健施設ご利用者のトイレ介助における移乗に生じるご利用者、介護職員双方の負担軽減を図る。</p> <p>【スケジュール】 導入決定後→業者との契約→令和元年11月機器納入(予定)→使用者研修実施→使用状況検証→導入効果報告</p>			
<p>【倫理面への配慮】 ご利用者の尊厳、プライバシーを十分に配慮する。 ご利用者及びご家族へ使用について説明、了承を得たうえで対応する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体負担軽減。アンケートについて、導入前後の数値確認により効果確認を行う。 ・ご利用者の状況を勘案しつつ、2人介助での移乗を1人介助ができるようにする。 ・ご利用者の移乗時における身体面、精神面の負担軽減。 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、職員2人介助で行っている一部ご利用者のトイレ誘導が、1人で行うことでトイレ介助における時間削減ができる。 ・ご利用者は安全にトイレへの移乗ができ、身体、精神ともに負担軽減につながる。 ・職員の身体負担軽減につながる。 			

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人志楽園福祉会)

事業所名 (特別養護老人ホーム猿投の楽園)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗サポートロボット		移乗サポートロボット Hug L1-01 (S)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和1年9月1日	1	令和元年9月1日	
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>特別養護老人ホームご利用者のトイレ介助、車いす移乗に生じるご利用者、介護職員双方の負担軽減を図る。特に女性職員の負担が大きくなっておりその効果に期待している。 導入決定→業者とのリース契約→元年9月機器導入→使用研修実施→使用状況検証→導入効果報告</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>利用者の尊厳、プライバシーを十分考慮する。 ご利用者及びご家族へ使用について説明、了承を得たうえで対応する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <p>職員の身体的負担の軽減。腰痛等のヒアリングの実施。移乗時の事故、ヒヤリの導入前後の数値確認により効果確認を行う。ご利用者の状況を勘案しつつ、2人介助での移乗を1人介助で出来るようにする。ご利用者の移乗時における身体的、精神面での負担の軽減。</p>			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <p>現状、2人介助で行っている1部ご利用者のトイレ誘導が、一人で行うことができ、トイレ介助における時間の削減が出来る。その分の時間と人手を他のサービスに活かすことが出来る。更にご利用者は安楽にトイレへの移乗が可能になり、身体的、精神的負担の軽減を図りながらこれまでの生活を継続することが可能になる。</p>			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人大同福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームゆうあいの里大同)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介助		マッスルスーツ	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和 元年 9月 1日	1	令和 元年 9月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
【事業概要及び導入スケジュール】 当機器の導入にて、職員の腰の負担を軽減し腰痛予防を図る。 導入スケジュール デモ機使用→業者と契約→令和元年9月1日納品→使用状況検証→導入効果報告			
【倫理面への配慮】 機器の使用目的、安全性、効果等について事前に十分な説明を行い、同意を得た上で実施する。			
【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) <ul style="list-style-type: none"> ・職員の腰痛予防を図る。 ・腰痛による離職及び休職を防ぐ。 ・移乗時の職員の負担軽減する。 			
【介護ロボット導入により期待される効果等】 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の腰部への負担が大きく軽減され、腰痛予防が図られることで、腰痛による離職及び休職を防ぎ、また、年齢を重ねても介護業務に従事することが可能となり、職員の安定雇用が図られる。 ・ロボットのパワーアシストを借りることで、事故(職員の腰痛、ご利用者の転倒、転落)の危険性が軽減できる。 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人慈雲福祉会)
 事業所名 (特別養護老人ホームウエルコートみづほ)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介護		離床アシストロボット リショナーネ Plus	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和1年9月1日	4台	令和1年9月1日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>特別養護老人ホーム利用者の離床を伴う活動的な生活支援サービスを提供する中で、疾病による安静確保や身体的課題・拘縮等可動域制限により、移乗時に利用者本人または職員・介護者双方に生じる過度な身体的負担の軽減を図る。</p> <p>〈スケジュール〉</p> <p>令和1年7月機器導入事前調査 令和1年8月業者による機器導入説明会・専門職員による使用利用者の選定 令和1年9月機器導入 使用方法説明会(職員研修実施) 導入後1か月使用状況確認 その後定期的(3か月を目安)に職員・業者による使用状況を確認</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>機器使用前に利用者の不安・プライバシーに十分配慮し、利用者・家族への説明を行い、理解を得た上で使用する。</p> <p>職員へは安全に使用できるよう研修とリスク管理を定期的実施する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体的負担の軽減を図る。腰部負担についてアンケートを実施し評価する ・移乗二人介助を一人介助とすることが可能になり、職員のマンパワー不足の軽減 ・移乗用吊り下げリフトが身体的理由から使用できない方への対応ができ、介助の幅の拡大と利用者の活動幅の拡大を図る ・移乗に起こる事故(転落・剥離等)リスク軽減により、利用者・職員の身体・精神的負担軽減 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の移乗時に生じる身体的・精神的負担軽減、活動的な生活による自立支援 ・ベッドと車椅子間移乗時に起こるヒヤリ・ハット事故の軽減 ・職員の移乗介助時に生じる身体面・精神面の過度な負担軽減。腰痛など体調不良の軽減 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 福寿園)

事業所名 (特別養護老人ホーム ひまわり邸)

サービス種別 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介護		離床アシストロボット リシヨーンネ Plus	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 9 月 1 日	1 台	令和元年 9 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>現状、人手で行われている抱上げ移乗介助の、特に寝たきり状態の要介護者の移乗介助は、ご利用者・職員共に負担が大きい。機器導入により双方の身体的・精神的負担の軽減を図り、ご利用者の離床を促進する。</p> <p>令和元年 6 月 機器設置事前調査 令和元年 9 月 機器導入 使用方法説明会実施</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>機器使用前にご利用者・ご家族に説明を行い、了承を得てから使用する。また、安全に利用できるよう、操作方法や活用方法を職員で共有し管理する。</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗介助時に身体的・心理的負担を感じる介護職員の割合を導入前より低減させる。 ・2名必要だった移乗介助を職員1名で行えるようにする。 ・定期的に職員へ効果をヒヤリングし、3年後も該当するご利用者へ使用を継続する。 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体負担軽減と心理負担軽減 ・負担軽減や最新機器導入による職員満足度向上 ・ご利用者の移乗介助時の負担やケガ等のリスク低減 ・ご利用者の安楽な離床による生活シーンの拡大 ・他施設との差別化によるリクルート効果 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人福寿園)

事業所名 (特別養護老人ホームひまわりの街)

サービス種別 (介護福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介護		離床アシストロボット リショーン Plus	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年 9月 / 日	1 台	令和元年 9月 / 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで
<p>【事業概要及び導入スケジュール】</p> <p>現状、人手で行われている抱上げ移乗介助の、特に寝たきり状態の要介護者の移乗介助は、ご利用者・職員ともに負担が大きい。機器導入により双方の身体的・精神的負担の軽減を図り、ご利用者の利用者の離床を促進する。</p> <p>令和元年 5月 機器設置事前調査 5月 機器導入 使用方法説明会実施</p>			
<p>【倫理面への配慮】</p> <p>機器使用前にご利用者・ご家族に説明を行い、了承を得てから使用する。また、安全に利用できるように、操作方法や活用方法を職員で共有し管理する</p>			
<p>【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移乗介助時に身体的・心理的負担を感じる介護職員の割合を導入前より低減する ・2～3名必要だった移乗介助を職員1人で行えるようにする ・定期的に職員へ効果をヒアリングし、3年後も該当するご利用者へ継続する 			
<p>【介護ロボット導入により期待される効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の身体的負担軽減と心理負担軽減 ・負担軽減や最新機器導入により職員満足度向上 ・ご利用者の移乗介助時の負担やケガ等のリスク低減 ・ご利用者の安楽な離床による生活シーンの拡大 ・他施設との差別化によるリクルート効果 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。

介護ロボット導入計画書

法人名 (社会福祉法人 観寿々会)
 事業所名 (特別養護老人ホーム ヴェルバレー)
 サービス種別 (介護老人福祉施設)

介護ロボットの種別		介護ロボットの製品名	
移乗介護		移乗サポートロボット Hug L1-01 (s)	
導入時期 (予定)	導入台(セット)数	購入日 (予定)	リースの契約期間 (予定)
令和元年11月1日	1	令和 年 月 日	令和元年11月1日から令和4年10月31日まで
【事業概要及び導入スケジュール】 (事業概要) 車いすやベッドからの移乗時に使用することにより、利用者の残存機能を活かし、無理なく、安全に移乗ができるようにしてゆく。また、職員に関しても、腰痛予防、業務の効率化・軽減につながり、安心してケアができるように職場環境の改善にもつなげてゆく。 (導入スケジュール) 令和元年6月 申請 令和元年10月 導入に向けた使用説明会 令和元年11月 導入開始 フォローアップ研修			
【倫理面への配慮】 利用者・家族に対して、機器の性能・導入に際しての注意事項の説明をし、同意いただいた方より順次使用してゆく。			
【介護ロボット導入により達成すべき目標】 (3年間目処) 利用者個々の状態に合わせ、アセスメントして、使用が可能な方のピックアップができ、利用者への説明と安全な使用ができるようにする。 利用者の体を持ち上げる移乗介助の中に導入をすることで、職員の腰痛予防を図る。機器を導入することでの業務の効率化・軽減を図り、働き方の改革につなげる。			
【介護ロボット導入により期待される効果等】 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の立ち上がりの補助移乗動作を安心してできるようになる。 ・職員の身体的負担の軽減と腰痛発生予防 			

(注) 介護ロボット毎に作成すること。